発音に誤りがある子の理解と支援①

「からす」が「たらす」になってしまう（置き換え）、「ひまわり」が「いまわい」になってしまう（子音の省略）、息が漏れたような音になってしまう（歪み）、全体的に不明瞭な発音になってしまう、というようなお子さんへの支援について一例を紹介します。

ことばの教室で･･･

・舌や口の体操を行い、動きをよくする練習をします。
・正しい発音を聞き分ける練習をします。
・正しい音を出す練習を行い、単語・文・文章・会話と段階を踏んで練習を進めます。

家庭でできること･･･

・発音の誤りを指摘したり、言い直しをさせたりせず、話を最後まで聞いてあげましょう。
・「たかながね･･･」と言ったときに、「さかながどうしたの？」と自然な形で正しい音を返してあげましょう。話が伝わった安心感と、正しい音を聞くことの両方の効果があります。

学級でできること･･･

・２年生のかけ算九九のときなど、言いにくいことばがあったときは、文字で書く手段も取り入れていただけるとよいようです。
・苦手なことに取り組んでいる通級児を認める雰囲気作りをお願いします。

＜学習発表会に向けて　支援できること＞

２学期は、運動会・展覧会・学習発表会・学芸会など学校行事の多い時期です。

学習発表会・学芸会のように、大勢の観客の前で発表することをとても不安に思っている子どもたちもいます。そんな子どもたちにどんな支援・配慮をしていったらいいのか、その実践例やヒントを一部ご紹介します。

〇セリフの配慮

・「サ行が言えない。」「ハ行がことばの初めにあるとどもりやすい。」など特定のことばが言えなくて困っている場合は、意味が同じような別のことばに換えると自信をもって言えることがあります。

〇話し方の配慮

・ことばを繰り返したり、出にくかったりすることが心配で「どうしても一人で言えない」「言いたくない」という場合には、台詞の初めだけ、もしくは全部を友達と一緒に言う方法もあります。

〇心理面や対応の配慮

・行事前や発表になると話しづらくなる子どもや、不安になる子どもがいます。どんな話し方でも、ちょっとした努力をほめたり、「それでいいんだよ」と認めたりして不安を軽減することも大切です。
・本番でどうしてもことばが出ない時はどうするかを相談し、あらかじめ考えておく必要がある場合もあります。

※子どもによって、話しにくさや考えていることは様々です。それぞれの子どもに合った方法を、その子の気持ちに寄り添い、相談しながら進めていただければと思います。その他、対応にお困りの場合は、個別にご相談ください。

大切なこと

☆子どもによって、話しにくさや考えていることは様々です。ここで紹介したのもごく一部の例です。その子に合った方法を、話し合ったり探ったりしていくことが大切です。（個別にもご相談ください。）
☆話し方の苦手さがあっても、話の内容を評価したり、話し方以外のよい面を伸ばしたりしていくと、自信がもてるようになると思います。
☆周りの友達への対応についても、その子に合った方法を話し合い、慎重に進めるとよいでしょう。